

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・村学力調査の問題内容では、「文章を書く」の目標値55%に対して、校内正答率25%だった。</li><li>・村学力調査の問題内容では、「文法・語句に関する事項」の目標値51.7%に対して、校内正答率33.3%だった。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「漢字を書く」「言葉の学習」「文章を書く」項目で全校平均正答率を下回っている。このことから既習事項の漢字や言葉の習熟が不十分であることが分かった。また、「文章を書く」問題については、指定された条件の作文を短時間で書く活動が不十分であったと考える。</li><li>・「文法・語句に関する事項」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・たくさんの文章に触れさせ、真似させている。時間を設定して書く時間をたくさん作り、書くことに慣れさせる。</li><li>・推敲させた文章を添削し、間違いを自分自身で直させている。日常生活での活用方法を教え、今後の生活に生かせるように学ばせる。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①作文を書く活動を計画的に実施し、良い作文を真似させ、型をつくっていく。</li><li>②辞書をこまめに引かせ、正しい言葉を使わせる。</li></ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①定期テストや授業内の作文で正しく書けているか確認する。</li><li>②授業プリント等で確認する。</li></ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①作文を繰り返し書くことで作文の型ができた。</li><li>②辞書を引き、言葉を正しく使うことができた。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①どの作文も似たような文章になることがあるので応用することが課題である。</li><li>②文にあった正しい意味を読み取れないときがあるのが課題である。</li></ul>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・言葉の意味、使い方など正しく覚えられるように指導する。</li><li>・本を読む機会を設定し、考え方を深める。</li></ul>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>国語に興味をもち、言葉を大切に使える生徒。 積極的に読書をして様々なことを知識として蓄えていける生徒になっている生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 基本的知識の習得</li><li>・ 知識を活用した表現力の向上</li></ul> <p>例1 全国平均より少し下回っている。特に「我が国の歴史」の領域が大きく下回っているため、課題があるといえる。(令和7年度 村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 令和7年度本校1学年対象教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」 ⇒ 「あてはまる」「だいたいあてはまる」 100% (2名中 2名)</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【現状と課題】</p> <p>複数の資料をもとに判断する問題で誤答を選択した児童が多かった。図や絵の資料ではなく、文章で書かれた資料の読み取りに課題がある。</p> <p>→ この結果に対して、まずは基本的知識の習得を目指し、それを生かした表現力の向上を図っていく。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>社会科として重要視している、多面的・多角的な深い学びを得られる授業構成により、表現力を伸ばさせていく。(この表現力を『できる』力と定義する) 以下、方策に記す。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①小单元ごとに複数の資料を活用し、多面的・多角的な感性と表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析(目標値は平均値B以上)</p> <p>②後期授業評価アンケートの結果分析(目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%)</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>成果 ①目標値を上回ることができた。 ②理解度A100%</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>多角的視点から学びを得るために、授業内における意見共有の機会を増やしていく。</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>社会科への関心がさらに高まり、自ら社会的事象に興味を抱くことで、地域の課題に目が向けられるようになっている生徒</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 数学科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

1年生の数学を見ると、全国平均よりも上回っている。特に活用の問題では大きく上回っているものの基礎的な内容で平均を下回っている。良好な状況であるが、データの活用の領域に関しては、特にグラフの読み取りに関して課題があるため、他の得意領域とバランスを取りながら取り組む必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・今年度の学力調査の学級平均正答率は67.5%（基礎73.3%，活用56.4%）と目標値（64.8%），全国平均正答率（67.1）より高い。
- ・小数と分数の問題の正答率が低かった。数直線を使用した数の理解が不十分であることが分かった。
- ・わり算・計算のきまりに関する問題にも課題が見られた。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・「文字と式」の単元において、自力解決で行う問題演習の前に、クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。
- ・1次方程式の単元において、ホワイトボードやICT機器を使用した教え合い活動。
- ・ICT機器（関数グラフソフト GRAPES）を活用したグラフの読み取り・作成。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- ②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。

＜検証方法＞

- ①小テスト  
実施前と後に行い、定着度を確認する。
- ②ICT機器を用いた発表  
発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞主体的に取り組む、発表などでも具体的にアウトプットできた。  
＜課題＞用語などの計算でない部分での理解が足りないことが課題である。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

知識の定着を定期的に行う。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

基礎的な知識を正しく使用して発展的な内容に取り組める生徒。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 理科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b>          令和7年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「食物連鎖」の正答率は0%であった。また「植物のつくりとはたらき」の正答率は50%を下回った。どちらも生物分野における基礎知識の定着が課題である。</li> <li>・表から数値を読み取る問いに関しては、課題が見られる。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の結果を根拠として説明できていないことが、誤答分析から明らかになった。学習した知識を使って論理的に思考し、自分の考えを簡潔に分かりやすく表現する力を高めることが、今後の課題である。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を活用しモデル実験や図、映像資料を使い、主体的に考える学習活動を充実させる。</li> <li>・小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着を図る。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。</li> <li>②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する、</li> <li>②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の結果を根拠として説明、科学的用語を用いて自分の考えを表現できる生徒が増えた。</li> <li>・小テストや定期考査の結果から、思考・応用する問題の正答率を高めることができた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を身に付けることができたが、発表など周囲に向けて表現が難しいと感じられた。</li> </ul>	<p><b>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <p>周囲との話し合い活動や発表を通して、身に付けた知識を活用できるような場面を設定し指導する。</p>
<p><b>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>理解していることを活用して、表現できる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 音楽科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・授業アンケートの結果から、ほとんどの項目について「A」が付いているが、学習の理解度と、グループ活動の充実については「B」という結果だった。このことから、個人レッスン、全体指導、グループワークのバランスをもう一度見直し、題材や生徒の実態に合わせた適切なアプローチについて再考する必要がある。また「できる」を体感させるために、スモールステップの学習及び評価に加え、学習目標をより明確にし「良い演奏とは何か」をきちんと提示していく。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

・「歌唱分野」における「声量」の課題について。基礎的な発声法や変声期における喉のコントロールなど、技術面を中心に個人レッスン形式と全体指導を織り交ぜながら指導をしている。徐々にではあるが、個々の得意な音域内において、のびやかな歌声を出せるようになってきている。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・学習活動には前向きに取り組む姿勢が見られるが、表現活動において自信の無さが見られる。特に今年度新しく始めたクラシックギターの活動で顕著に見られるため、1の課題で述べた通り、適宜スモールステップの学習と評価を行う。また演奏発表では個別の演奏だけではなく複数人によるアンサンブルを通して、演奏に対する自信をつけさせていく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

①個別指導の充実

②活動の振り返り

③期末考査の分析を行う。

<検証方法>

①良い点、課題を明確にし、次に目指すべき目標を明確に提示する。

②授業観察やワークシートの記述等から、授業内容をふり返り、次時に生かす。

③期末考査の分析を実施し、授業改善に生かす。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

・歌唱及び器楽の技能が大きく向上し、鑑賞課題においても主体的に自分の考えを記述できるようになった。

<課題>

・変声期による声質の変化もあり、歌唱の音程及び声量面において課題が残る。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・更なる表現力の向上に向けた専門的な技術指導及び支援。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

習得した技能を生かし、思いや意図をもって音楽表現ができる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 美術科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>自ら主題を生み出したり自分らしい表現を見付けたりすることができる生徒ばかりだが、表現したいことを実現するための技能の習得と向上に苦戦する場面が多いことが課題。知識や技能の地道な習得と、自身の意欲や主体性によって積み重ねたことが成果として表れ、生徒自身が成長を実感できるような授業づくりをしていく必要がある。</p>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>授業への興味・関心が高く学習内容も定着していると考えられるが、個々の能力差があり、時間配分への意識が弱い面が見られるので授業者側の働きかけに工夫が必要である。</p> <p><b>【改善策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習内容や経験、技能等を総合的に生かしたり、材料や技法を組み合わせたりするなどして応用的な活動に取り組む授業を行う。</li> <li>・タブレット端末を活用して活動や作品の記録、まとめ、発表、振り返りを行うことで自分の活動や制作の進捗をメタ認知しながら、よりよい表現活動につなげる授業の構成を継続する。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <p>生徒自身が得意と不得意を自認しながら、これまでの経験や既習事項をどのように生かすか、また自分が新たに身に付けるべき知識や技能は何かを主体的に考え行動しようとする姿勢が見られ、自ら能力を伸ばしながら与えられた時間内に課題を解決しようとする意識づけができています。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作っている。また、アイデアの共有や中間発表での意見交換など、協働的な学びの場を設定している。</p>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <p>やるべきことがわかる状況では、課題解決のための各ステップを着実に遂行することができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>自分らしく発想したり構想したりする場面では、そのために何をすればよいか分らず、停滞する様子が見られたことが課題。過去の参考作品等優れたものを見る機会は確保したが、同級生と制作する過程を相互に見合う機会はほとんどなかったことが原因ではないかと考える。</p>	<p><b>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <p>発想を広げたり構想を練ったりするためのマッピングやチャートなどの活用方法を実践し、今後自ら活用できるようにする。</p> <p>参考資料として、完成作品だけでなく制作過程の記録を詳細に示して、同じ学年の生徒がどのようなプロセスで制作したのか読み取れるようにし、つまづいたところや思考の転換があったところなどアイデアがアップデートされる過程を見て学ぶ機会を設ける。</p>
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>自身の経験や背景を基に、自分らしさを生かした発想や構想を主体的に創出できる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 保健体育科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>授業評価アンケートの結果より、「教科の関心を高められているか」、「内容を理解しているか」という質問に対して全生徒が肯定的にとらえている。また、「どのような力を身に付けたいか」という質問に対して、授業での学びを実生活で活かす力を付けたいという回答があった。取り組んでいる単元からその運動の特性を捉えさせるだけではなく、体力要素を兼ねた説明を加えて、自分の実生活に合った取り組みを選択できるようにしたい。</p>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新体力テストでは、握力とボール投げに課題が見られた。また、全体の平均値は全国平均を上回るものが多いが、個人差が大きいことにも留意する。</li> </ul> <p>→タブレットで動画を撮影するなど、自分の動きを客観的にとらえられるようにする。よい動きは全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の観察から、運動課題への不安が強いと取り組むまでに時間がかかることもある。苦手な児童ほど試行回数が減り、成長速度が遅れてしまうことが課題である。</li> </ul> <p>→個々の体力や技能に応じた課題やルールを設定し、運動の特性に応じた楽しさを味わいながら、活動することができるようにしている。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技能の習得に繋がる補強運動を設定し、単元に応じた技能の習得を目指す。</li> <li>・補強運動や学習内容を自分の目的に合わせて選択できるようにして、主体的な取り組みを促す。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。</li> <li>②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項やポイント、前時との関係性がわかるように板書やワークシート、スライドを活用する。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</li> <li>②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <p>単元の全体像と『わかる』を事前に明示したことで、生徒が活動の目的を正しく理解し、迷う時間を削減できた。その結果、効果的な運動時間の確保と、ポイントを押さえた質の高い練習の両立が可能となり『できる』を体感させることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>「何ができないか」はわかっているが、「なぜできないか」という原因分析の精度を上げる必要がある。</p>	<p><b>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <p>スプレッドシートやワークシートの分析に他者の視点を介在させ、自分の主観と他者から見えた客観的なズレを認識できるようにする。</p>
<p><b>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>分析の質を深められる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 技術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。</li> <li>・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識・技能の習熟で生徒に適した指導を行う必要がある。</li> </ul>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容(別学年の中1内容記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。</li> <li>・ノート、ワークシート、事前学習プリントを用いて知識の定着を図る。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。</li> <li>・ノート、ワークシート、事前学習プリントを用いて知識・技能の定着を図る。</li> </ul>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②ノートやワークシートで課題に気付き、解決できる能力を身に付けられるようにする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p> </td> </tr> </table>		<p>&lt;方策&gt;</p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②ノートやワークシートで課題に気付き、解決できる能力を身に付けられるようにする。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>
<p>&lt;方策&gt;</p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②ノートやワークシートで課題に気付き、解決できる能力を身に付けられるようにする。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに教師のフィードバックを乗せることで、生徒の表現力を向上させることができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの作成時に、調べた情報と既知の情報をまとめ、表現する力に課題がある。</li> </ul>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートのフィードバックで毎時の調整力を向上させるとともに、AIを活用したレポート作成について指導し、技術的な課題を自主的に調べ、考えをまとめ、表現する機会を意図的に設定する。</li> </ul>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>自分の考えや思いを、技術的な根拠を基に相手に伝えることができる生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を活用しながら自身の考えをまとめ、具体的に表現すること。</li> </ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 「基礎的な知識や技能の定着」、「生活をよりよく改善しようとする意識」が課題として挙げられる。その授業改善策として、自身の生活を振り返る時間を設け ICT 機器の活用や体験的な活動を取り入れながら、考えを深められるような授業構築を行い、既習事項を活かし生活をよりよく改善しようという意識を高められるように個に応じた適切な支援を行った。その結果として、体験的な活動を通して実生活と結び付けて考えられるようになり、既習事項をもとに実際に自身生活の中で生かそうとする機会が増えたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識が定着しているかを確認するために、復習として副教材を活用している。また、既習事項を活かしながら考える授業内課題などを用いて、具体的に表現する機会を増やしている。</li> <li>・ICT機器を使用した振り返りシートを活用し、基礎的な知識と実生活での結び付きに注目させながら、振り返ることができるように教師がコメントを返す。</li> </ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎的な知識の定着を図るために繰り返し授業内で用語を使用したり、副教材で確認したりする。</li> <li>②既習事項を活用して自身の考えや意見をまとめる授業内課題や個に応じた適切な支援を行う。</li> </ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ワークシート、授業の振り返り、課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート</li> <li>②ワークシート、授業の振り返り、授業内での課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート</li> </ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①実習記録や振り返りの記述内容などに変化が見られた。また、定期考査でも知識の定着が確認できた。(課題、振り返りシート、定期考査等より)</li> <li>②授業中や振り返りの中で、既習事項を活用し、内容の理解を深める姿が見られた。(授業観察、振り返りシート等より)</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>自身の生活と結び付けながら、題材への理解をさらに深め、よりよい生活の実現に向けて創意工夫すること。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の生活を振り返ることができるように導入を工夫し、既習事項を活用しながら振り返ったりまとめたりできるように声かけや個別で支援していく。</li> </ul>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>よりよい生活の実現に向けて理解を深め、工夫を考えてさらに主体的に取り組むことができる生徒。</p>	

## 〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 外国語科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果から次のことが挙げられる。

- ・音声を聞き、活字体でアルファベットを解答する問題で目標値より20ポイント校内正答率が低かった。
- ・必要な情報を読み取り、紹介文の形式に合わせて英語で解答する問題で、クラス内の正答率は全国平均よりもやや低かった。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「聞くこと」に関する課題として「長文がテストで流れた際に、何について話しているのか理解が間に合わなくなることがある。1文の細切れで再度流すと理解することができる。」と記載され、方策として、「ALTに速度を遅くして長文を音読してもらい、理解度を高める。」と挙げている。検証結果として「2回の再生で聞き取れない場合に、ALTに音読を依頼すると児童は内容を聞き取ることができた。」という成果が得られている。
- ・「読むこと」に関する記載なし。

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・音声を聞く際に、1文の細切れで音声を流し、復唱する練習を実践。
- ・授業で英語ノートを使用し、正しくアルファベットを書けるように練習する。
- ・代名詞に注目して文章を読み、情報を整理しながら読む練習を授業内で実践。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ①英語を書く際に、適切にアルファベットを書けているか、複数形や三人称単数現在等の細やかな文法に意識をするよう指導する。
- ②代名詞や指示語を意識して文章を読むよう指導する。

#### <検証方法>

- ①ノート・ワークシート回収。
- ②音読時、発問にて確認。

### 4. 検証結果(成果と課題)

#### <成果>

- ①スペルチェックをした際に、自身の間違いに気付けるようになった。
- ②代名詞や指示語を理解し、自身の表現でも活用する姿が見られる。

#### <課題>

- ・急いで書くと複数形や動詞の活用などを忘れることがある。

### 5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・英文を書いた後にはスペルチェックをする指導を継続して行う。
- ・スペルチェックの後に、複数形や動詞の活用などの文法に関するミスを確認するといった、段階を分けた確認をするよう声をかける。

### 6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域において、学んだことを積極的に活用し、自身のことや場面の描写を英語で表すことができる生徒。